

絆

KIZUNA

2022 JUNE

JAグループ青森 月刊広報誌 [906号]

6



\\ 毎月第2金曜日はJA-SSの日! //

令和4年6月から令和5年3月まで

JA-SSの日 キャンペーン



その場で!

税込 **2,000**円以上給油で
レシートに「**当たり**」が出たら **賞品を進呈!**

※一部実施していない店舗がございます。※キャンペーン開催店舗は、店頭ポスター・のぼりが目印です。

毎月第2金曜日 全10回開催!

令和4年
6月10日(金)



ネピア
ネピネピメイトティッシュ
2パックセット(150W×5箱×2P)

令和4年
7月8日(金)



パールライス
「まっしぐら」パックごはん
4パック

令和4年
8月12日(金)



アオレン りんごジュース
あおもりネプタ缶 5本セット
195g×5本

令和4年
9月9日(金)



P&G
アリエール炭酸ジェルボール
1箱(12個入り)

令和4年
10月14日(金)



グリコ
お菓子詰合せ 6点セット

令和4年
11月11日(金)



ライオン
NANOX 除菌消臭スプレー
350ml×1本

令和4年
12月9日(金)



ライオン
キッチンバラエティ 3点セット

令和5年
1月13日(金)



ネピア
プレミアムトイレトロール
6ロール×1P

令和5年
2月10日(金)



P&G
アリエール炭酸ジェルボール
1箱(12個入り)

令和5年
3月10日(金)



Kao
キュキュット 2本セット
240ml×2本

【ご注意】商品画像はイメージとなります。やむをえず、別の商品に変更となる場合がございますのでご了承願います。



2030年におけるあるべき姿(現場で経済事業を語り実践する組織)をめざし 「JA全農あおもり中期計画(令和4～6年度)」を実践する

本県農業は、農家の高齢化や後継者不足による離農等を背景に、農地の集積が進み、大規模経営体は増加傾向にあるものの、地域面積全てを請け負うには至らず、耕地面積の減少が進行しております。

また、生産年齢人口の減少により基幹的農業従事者は減少し、労働力不足が慢性化しており、更なる生産基盤の脆弱化が予想されております。

JA全農あおもりは、2030年におけるあるべき姿を「現場で経済事業を語り実践する組織」とし、JAとの連携により労働力・担い手不足の解消など、持続可能な農業生産に寄与するとともに、広域かつ専門的な見地に立ち、地域に根ざした営農支援活動から流通・販売までを一貫して実践する組織をめざし、今次3か年計画において「生産振興の強化」・「販売力の強化」・「購買力の強化」の3つの最重点施策を掲げ取り組んでまいります。

「生産振興の強化」については、営農・販売・購買の連携を強化し、省力化に対応した生産・栽培技術の実証や労働力不足および担い手への対応など生産基盤維持に取り組み、本県農業の振興をはかるとともに、環境に配慮した生産体系の確立に取り組みます。

「販売力の強化」については、複数年契約や予約相対取引など安定的な販売先の確保や輸出拡大に取り組むとともに、伸長するeコマース市場への対応強化・宣伝活動の拡充・物流改善により、有利販売を実践し組合員の所得向上をはかります。

「購買力の強化」については、スケールメリットの発揮等により有利購買に向けた取り組みを強化し、トータル生産コストの低減やパレット輸送などに取り組むとともに、組合員へのサービス向上をはかります。

経済事業に特化する連合会としての機能強化をはかるため、営農・販売・購買事業の連携・連動による総合メリットを発揮するとともに、これまで以上に現場に近い分野における活動を強化するため、組合員・JAとの連携による、労働力・担い手不足など喫緊の課題に対応し、生産基盤維持に向けた取り組みを加速させ事業を展開していくこととしております。

JA全農あおもり

絆 ⁶ 目次 KIZUNA CONTENTS

巻頭言	1	経営の窓口	15
フラッシュ	2	JA八戸NEWS	16
インフォメーション	4	輝き	17
東北農政局通信あおもり	11	すすめ! SDGs!	17
実践農業者支援	12	誉(ほまれ)	18
組織農政通信	14		

フラッシュユ



JA 青森

農家の野菜苗販売人気 JA青森直売所（5/9）

JA青森あすなろ直売センターでは、4月下旬から販売している野菜苗の売れ行きが好調。野菜苗は地域の農家が播種・育苗・定植した余剰分。農家が育てた苗は丈夫で育てやすいと好評。売り場は買い物客で連日朝から賑わいを見せ、5月9日朝も定番野菜・ハーブ類など約30種の苗が並んだ。野菜苗の入荷は6月上旬頃までの予定。



JAつがるにしきた

生産現場の現状把握

TAC同行常勤理事による担い手訪問（5/12・13）

澁谷勝志代表理事組合長はじめ常勤理事4人がJA各支店のTACに同行し、管内4カ所の農家と意見交換を目的に巡回訪問を行った。

常勤理事による担い手訪問は、自己改革の一環として4年前から実施。月1回のペースで管内を巡回し、農家の意見や要望を今後の事業運営に反映させていく。



JAあしよつがる

小学生田植え体験 いつもの風景に親しみ（5/20）

五所川原市南部土地改良区と阿部堰地区環境公共推進協議会が主催した、「まっしぐら」の田植え体験に五所川原市立松島小学校の5年生13人が参加した。

自然環境や農産物、地元農業へ関心を持ってもらうことが目的で、今後は、社会科や総合の授業時間を活用し、観察会や収穫後にJAあしよつがる直売所での販売体験を計画。1年を通じ稲作栽培についての理解を深めていく。



JAつがる弘前

腐らん病撲滅

赤いテープで処理を促す（4/26）

弘前市りんご共同防除連絡協議会は4月下旬から5月上旬まで、リンゴの腐らん病撲滅を目指し「りんごメーデー」を行った。

弘前北地区管内の鬼沢地区では、鬼沢地区共防連の代表者16人が5班に分かれ、園地ごとにリンゴの樹を50本ずつ、腐らん病の発生程度や処理状況を確認。未処理の樹には赤いテープを巻き、園主に処理を促した。



JA相馬村

女性部 保育所の畑で定植（5/20）

相馬こども園の年長児8人がJA相馬村女性部3人の指導のもと、同園の農園でオクラや枝豆など8種類の定植を行った。この活動は、地域の子供たちに食と農の大切さを土に親しみながら楽しく学んでもらう目的で毎年行われている。今後も女性部は、連携活動を実施し地域活性化に取り組む。

JA津軽みらい



「ときわにんにく」地域団体商標登録

知事を表敬訪問（4/27）

JA津軽みらいと藤崎町役場は、藤崎町常盤地区の特産品「ときわにんにく」が、地域団体商標登録されたことを県庁にて三村申吾知事に報告した。同JAときわにんにく部会は、地域ブランド化の推進とPR活動などに取り組み、2020年に地域団体商標の出願申請。22年2月28日付けで登録された。

「ときわにんにく」は、雪のように白く、玉が大きいのが特徴。9月から10月上旬にかけて植え付けを行い、6月下旬から7月上旬に収穫される。

JA十和田おいらせ



種子採種圃場で田植え盛ん

例年通りのスタート(5/16)

十和田市七郷地区の水稻種子採種圃場の田植えが5月11日からスタートした。育苗は順調に進み、田植えは5月末まで。

同地区の十和田市水稻採種組合の米農家43戸が、県の推奨米で主力品種の「まっしぐら」を中心に112ヘクタールで栽培する計画。秋の刈り取り後、2023年の青森県内の水稻種子用となる。

女性部 相続について学ぶ（5/10）

JA八戸金融部は、同JA旧豊崎支店で女性部役員13人を対象に初めて「相続・資産相談セミナー」を行った。

今回のセミナーは、女性部員から相続について詳しく学びたいという要望により開催。講師のたかち総合事務所の高地豊人税理士から、設例をもとに相続の税金と対策について説明が行われた。



JA ゆうき青森

農業ふれあい教室開催（5/13）

JAゆうき青森女性部とうほく支部は、東北町立甲地小学校にて農業ふれあい教室を開催し、3年生を対象に13人の児童と同女性部2人、生産者の吹越さんから計19人が参加した。

同教室は県女性協の取り組みの一環で毎年管内小学校で実施。今回はながいもの栽培から収穫までの作業を実施し、6月から7月上旬にかけて発芽の観察などを体験予定。

JAおいらせ



行者菜出荷本番に目揃い会（5/13）

JAおいらせやさい推進委員会六戸地区予冷野菜部会は、行者菜の目揃い会を開き、折れや枯れのある葉の調整や作業中の注意事項を確認した。

行者菜は山形県発祥の行者ニンニクとニラを交配した野菜で、平成25年から栽培。4月下旬から7月下旬までの出荷期間中、約1トンの出荷を目指す。

JA八戸



県選出国議員へ要請

JA青森中央会と青森県農協農政対策委員会は5月12日、衆参議員会館で県選出国議員7人に対して食料安全保障の強化に係る要請を行った。

要請内容は、①将来にわたる食料の安定供給を確保するため、食料・農業・農村基本政策の検証・見直しを含めた、食料安全保障の強化にかかる基本政策の確立②「みどりの食料システム戦略」「人・農地プラン」を活用した、地域の話し合いによる将来を見据えた活力ある産地づくりの推進③農畜産物各品目で抱える課題解決のため、農業予算の増額や支援策の拡充—など3項目。

①については、深刻化するウクライナ情勢、世界的な食料や資源競争の激化による生産資材や原油価格の高騰により、食料安定生産のリスクが現実化しつつあることから、特に強く要求した。

JA青森中央会の雪田徹会長の要請に対し、江渡聡徳自民党青森県連会長は「原油価格の高騰を始めとする様々な課題があることは承知している。我々も今まで以上に汗を流していく」と力強く述べた。



▲江渡県連会長(左)に要請書を手渡す雪田委員長(右)

自民党若手議員との意見交換会

青森県農協青年部協議会の成田啓輔委員長は5月14日、青森商工会議所連合会や青森県漁協青年部連絡協議会の青年部員らと共に、青森市の荒川市民センターで自民党若手議員との意見交換会を

行った。

自民党からの出席は江渡聡徳自民党青森県連会長、津島淳議員、鈴木憲和議員、平沼正次郎議員、斉藤直飛人県議会議員の5人。

成田委員長は原油・資材価格の高騰に触れ、「再生産が難しい状況にあるため、早急に対応していただきたい」と述べた。これに対し、鈴木議員は「農家の後押しをしていけるよう支援していく」と述べた。

その他、青森県商工会議所の青年部員は、コロナ禍で失われた2年間の収益について触れ、「コロナは収束の兆しを見せているが財政的には厳しい状況は変わらない。支援金などの増額を期待したい」と窮状を訴えた。



▲意見を述べる成田委員長(左)

今暁子さんを会長に選任 青森県農協生活指導員連絡協議会通常総会

青森県農協生活指導員連絡協議会は5月18日、県農協会館で通常総会を開き、県内JAの生活指導員ら17人が出席した。役員改選では、会長に今暁子さん(JAつがるにしきた)、副会長に石塚選子さん(JAゆうき青森)を新たに選任した。

総会では2022年度の事業計画や予算などの議案



▲チューリップのリースを作った生活指導員ら

を承認。計画では、対話活動を活発に行い、地域の社会貢献に取り組んでいくとした。

総会後の研修会では情報交換をしながら『家の光』（22年4月号）に掲載されたモールドで作るチューリップのリースを制作し交流を深めた。

新規就農者ら リンゴ栽培技術学ぶ

J A青森中央会は5月9日、弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場で、令和4年度第1回「リンゴ栽培技術現地研修会」を開き、新規就農者や若手営農指導員など14人が参加した。

同研修会は弘前大学による受託研究の一環で、J Aが推薦する新規就農者の栽培技術習得と、業務経験が浅いJ A営農指導員に生産現場における専門的知識を習得させることを目的に実施し、今年で2年目となる。

1回目となる今回は、座学と実地による2部構成で実施。弘前大学農学生命科学部の林田大志助教が講師を務め、リンゴの生態や摘花と人工授粉の実施方法を中心に講義を行った。

林田助教は「人工授粉の際には風で花粉が飛ばないように気を付け、中心花以外の側花や腋芽には花粉がつかないように注意が必要」と呼びかけた。

参加者は「昨年は分からないことだらけで参加していたが、今年は分かることも増えて、栽培における疑問点も出てきた。勉強になるので今後の研修会も参加したい」と話した。

同研修会は、年間6回の現地開催を計画している。



▲リンゴの人工授粉について説明する林田助教（左）



行事（6/10～7/10）

6月

- 10日 県J A直売所協議会（県農協会館）
- 13日 食・農・生命を守る代表者集会（県農協会館）
- 13～14日 管理者研修会（県農協会館）
- 15日 J A広報担当部長会議（県農協会館）
- 16日 にんにく栽培技術研修会（県農協会館）
- 16日 県農協生活指導員連絡協議会、新旧合同役員会（県農協会館）
- 20日 県選出国會議員要請（青森市ホテル青森）
- 20～21日 経済事業内部統制基礎研修会（県農協会館）
- 22日 通常総会（県農協会館）
- 22日 県農協農政対策本部委員会（県農協会館）
- 23日 経営基盤強化研修会（県農協会館）
- 24日 第1回きらきらサークル研修会（県農協会館）

7月

- 4～7日 次世代リーダー育成研修会ユニット1（県農協会館）
- 5日 J A総務管理担当常勤理事会議（青森市 ホテル青森）
- 7日 定例理事会（県農協会館）

LGBT（性的マイノリティ）に対応したJA住宅ローンの取扱開始

JAバンク青森では、SDGs（持続可能な開発目標）への取組みの一環として、2022年5月20日から、LGBT（※）に対応した住宅ローンの取扱いを開始した。

対象となる住宅ローンは、「協同住宅ローン株式会社保証付住宅ローン」で、連帯債務者や連帯保証人（収入合算者）における配偶者の定義にLGBTの「同性パートナー」を加えた。

利率などの条件は、既存の住宅ローンと変わらないが、融資を申込む際は、住宅ローン所定の申込書類に加え、以下の確認書類が必要となる。

- ① 自治体が発行する「パートナーシップ」を証明する書類
- ② 合意契約にかかる公正証書
 - 二人が共同生活を営むにあたり、当事者間で次の事項が明記されていること。
 - ✓二人が愛情と信頼に基づく真摯な関係であること。
 - ✓二人が同居し、共同生活において互いに責任をもって協力し、その共同生活に必要な費用を分担する義務を負うこと。
- ③ 任意後見契約にかかる公正証書および登記事項証明書
 - 二人が相互に相手方を任意後見受任者とする契約であること。

（※）LGBTとは、性的マイノリティ（性的少数者）を表し、同性を恋愛の対象とする女性のLesbian（レズビアン）、同性を恋愛の対象とする男性のGay（ゲイ）、同性も異性も恋愛対象となりうる人のBisexual（バイセクシャル）、体の性と心の性が異なる人のTransgender（トランスジェンダー）の頭文字をとって作られた言葉です。

パートナーシップ宣誓制度は、既に青森県および弘前市が導入済み。

JAバンク青森では、これからも性的マイノリティや性の多様性への理解を促進し、誰もが自分らしく安心して生活できる地域社会づくりに貢献していく。

パートナーシップ取扱いに関するQ & A

Q 1. 融資対象物件の所在地と異なる自治体で受けたパートナーシップ証明で申込みできますか。

A 1. 申込可能です。
なお、証明書が真正かつ有効なものであるか確認させていただきます。

Q 2. 異性同士のパートナーの申込みは可能ですか。

A 2. 申込可能です。
確認書類でパートナー関係が確認できれば、同性、異性は問いません。

Q 3. 同性パートナーによる収入合算で申込んだ場合、審査や保証料に影響はありますか。

A 3. 特にありません。
配偶者との収入合算による申込みと同様に審査します。また、同性パートナーであることが適用保証料率に与える影響もありません。



©よりぞう

行事（6/10～7/10）

農林中央金庫

6月	
10日	青森県JA信用担当部長会議（*）
17日	JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
20～21日	ライフイベントセールスリーダー養成講座（県農協会館）
22日	融資トラブル対応研修（*）
24日	住宅ローン提案型研修（*）
27日	融資初任者研修（*）
28日	不正不祥事未然防止対策研修（*）

7月	
5～6日	農業融資（簿記・税務）研修（*）
7日	JA信用事業の内部統制の基本研修（*）
7日	2022年度第1回証券外務員資格試験・内部管理責任者資格試験（県農協会館）
8日	青森県JA信用担当部長会議（*）

（*）はウェブ会議

農協電算センター

6月	
10～21日	窓口端末機操作研修（貯金・OTM）・3回開催（県農協会館）
22日	定時株主総会（県農協会館）
29日	窓口端末機操作研修（貸出金）・1回開催（県農協会館）

7月	
4～8日	窓口端末機操作研修（貸出金）・2回開催（県農協会館）

アグリショップ青森店 お客様に県産の花プレゼント

JA全農あおもりは4月29日からの連休中、青森市の県観光物産館アスパム内「アグリショップ青森店」で、リンゴやジュース、ニンニクなどを買い求める客らに、花の苗をプレゼントした。

プレゼントしたのは旬の県産花きで、マーガレット、ネモフィラ、ナスタチウムの3種類。税込500円以上購入した利用客に期間限定で配布するもの。240ポット用意した。

中でも人気だったのはネモフィラ。県産は4月から5月が旬で、主な産地はJA津軽みらい（平川市尾上）。鮮やかな青色に魅かれ、手に取る客が多くいた。

同店の店長は「昨年同時期に比べ利用客が増えた。自宅で花を植え、楽しむ人が増えたら嬉しい」と話す。



▲人気のネモフィラを手渡す販売スタッフ

春掘りながいもの販売対策会議

JA全農あおもりは5月13日、十和田市の（一社）上十三広域農業振興会で今後出荷が本格化する令和3年産春掘りながいもの販売対策会議を開いた。県内JA担当者および県外市場関係者らが

出席。春掘り（5月から10月）の販売目標価格2800円（1ケース、10^{kg}）達成に向けて、今後の販売対策等について協議した。

6月の「麦とろの日」に向けた新たな消費宣伝対策として、メーカーとのタイアップ企画「麦とろセット販売」を実施することとした。量販店において、麦とろごはん商品とながいもを同コーナーに並べ販売することで、同イベント日の訴求およびながいもの消費拡大を図るもの。店頭ではPR動画を放映し、目立つ売り場づくりに努める。販売対策としては、発生割合が高い4L・3L級およびC品の予約相対取引の拡大や、需要が増えている産地パック品の販売強化などに取り組むこととした。

全農あおもりやささい花き課の竹達広治課長は「需要期に向けた対策を組み、少しでも販売単価の底上げに繋がるよう努めていきたい」と話した。



▲販売対策について協議する出席者

全農杯卓球大会で県産農畜産物を贈呈

JA全農が特別協賛する「全農杯2022年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）」の青森県予選会が5月14日、黒石市のスポカルイン黒石で開かれた。JA全農あおもりは大会に協賛し、優勝、2位、3位の選手に県産農畜産物を贈呈。優勝者には黒毛和牛サーロインステーキ、2位には米「青天の霹靂」とながいもフィナンシェ、3位にはJAアオレンのりんごジュース「希望の雫」を贈呈した。

また参加賞として、県産米「まっしぐら」を使用したパックごはんを4個、県産牛乳を3個を詰合せ、出場選手全員の238名に配布した。

バンビ男子の部で優勝したむつ卓翔会の館樹琉さんは、表彰式で笑顔を見せ「1位が取れて嬉しい。ステーキを焼いて、ごはんをたくさん食べたい」と話していた。

全国大会は、7月28日から31日に神戸市で行われる。



▲優勝した館さん（左）と入賞した選手たち

ドローンの普及を促す新CMを制作

J A全農あおもりは、北東北スカイテック㈱からシステムメーカーと協力し、ドローンの普及を促すテレビCMを新たに制作した。4月下旬より、青森県内で放映している。

CMで紹介しているのは、DJI社製の最新高性能農業用ドローン「AGRAS T10」と「AGRAS T30」の2つ。農薬散布、肥料の追肥、どちらにも使える機体だ。教習からアフターまでのサポートも提供できるため初心者でも安心して利用できる。

CMの制作にあたった全農あおもりの担当者は「労働力不足が進む中、時短で経済的なドローンをぜひ活用して欲しい」と話す。

この他、全農あおもりでは、J A営農指導担当者らに対するドローンの技術基礎研修会や実演会

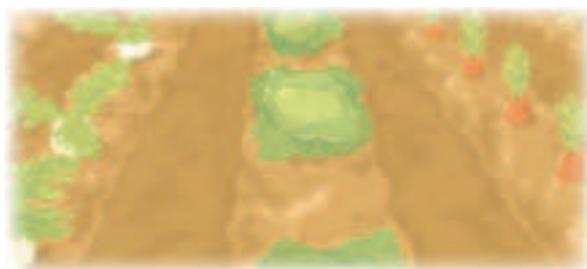
の開催、農薬散布試験等の取り組みを進めている。

ドローンに関するお問合せはお近くのJ Aまで。

制作したCMは、Youtubeでも公開している。



動画はこちら



行事 (6/10~7/10)

6月

- 13日 令和4年度やさい花き共販大会（青森市 フレアージュスイート）
- 24日 高圧ガス第二種販売講習会（県農協会館）

7月

- 7日 運営委員会（県農協会館）

毎月2回放送！「Fresh Vegetable」

5月2日放送

J A津軽みらい「アスパラ」



放送内容は
こちら



5月20日放送

J A八戸「春掘りながいも」



放送内容は
こちら



6月の放送スケジュール 夕方6時56分から！

- ・3日 J Aゆうき青森「こかぶ」
- ・17日 J Aおいらせ「だいこん」

令和4年度JA共済事業推進大会の開催

JA共済連青森は4月21日、ホテル青森にて「令和4年度JA共済事業推進大会」を開催し、県内JA役職員約90人が参加した。

開会に先立ち、オープニングセレモニーとして有村架純さんによる令和4年度目標達成に向けた激励のメッセージを上映した。

続いて、運営委員会会長である雪田徹会長より、「令和3年度は、JA共済3か年計画の最終年度でありましたが、コロナ禍での新たな生活様式に対応するデジタル技術等を活用した接点構築・活動環境の整備と、組合員・利用者の利便性向上とJA事務負荷の軽減に取組み、組合員・利用者本位の活動による保障提供の徹底と農業・地域への貢献等を通じて、共済事業に対する信頼感・満足度のさらなる向上に取組んでまいりました。全JA役職員による積極的な事業推進活動を展開していただきましたことに対して改めて敬意を表すとともに感謝申し上げます。

令和4年度は、新たなJA共済3か年計画の初年度であり、共済事業の基本的考え方である、「寄り添う」「届ける」「繋がる」を様々な施策展開に反映させ、「持続可能なJA経営基盤の確立・強化」の実現を目指し、全契約者・組合員への活動の実践による関係性の強化・再構築を図るとともに、生命保障を中心とした「ひと」「いえ」「くるま」「農業」の万全な保障提供に取組んでまいり所存であります。本大会を契機として、全JA役職員が総力を結集し、JA共済の普及推進に取組み、JA普及推進目標の早期達成およびJA共済事業の事業基盤・維持拡大に向けて、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶があった。

次に、全共連鹿嶋伸行専務よりビデオメッセージによる激励の言葉があった。

続いて、令和3年度LA優績顕彰・新任LA優績顕彰が行われ、20名のLAが顕彰された。併せて、スマイルサポーター優績顕彰及びJA自動車共済損害調査サービス優秀組合表彰・JA自動車共済損害調査サービス優秀担当者表彰・JA共済優績組合表彰が行われた。

その後、各JAの代表者による令和4年度JA普及推進目標確認と決意表明の後、JA十和田お



▲挨拶を述べる雪田運営委員会会長

いらせの高谷邦常務の発声により「がんばろう三唱」が行われた。

最後に運営委員会副会長である斉藤勝徳副会長より閉会の挨拶が行われ、本大会の幕を閉じた。



▲JA十和田おいらせの高谷邦常務の発声により「がんばろう三唱」が声高らかに唱和された

令和3年度LA優績顕彰

《ゴールドクラス受賞》

JAつがる弘前	桑田 祐也
JA十和田おいらせ	上坂 和美
JA十和田おいらせ	大山 六百子
JA十和田おいらせ	舘 康子
JA十和田おいらせ	佐々木 喜美子
JA八戸	日澤 さゆり

《シルバークラス受賞》

JA十和田おいらせ	山内 沙織
JA十和田おいらせ	高田 寿志
JA十和田おいらせ	沢目 祐子
JAゆうき青森	久保 尚子
JA八戸	中村 恵美子
JA八戸	伊藤 あや子

《ブロンズクラス受賞》

J A十和田おいらせ 中野渡 あゆみ
J A十和田おいらせ 川村 浩貴
J Aおいらせ 坂本 満理子
J A八戸 田名部 祐也
J A八戸 畑中 一輝

令和3年度新任L A優績顕彰

《L A個人実績 第1位》
J A八戸 小笠原 総一郎
《L A個人実績 第2位》
J A八戸 小滝 怜子
《L A個人実績 第3位》
J Aつがる弘前 奈良 孝致

令和3年度スマイルサポーター優績顕彰

《個人実績 第1位》
J A相馬村 佐藤 望
《個人実績 第2位》
J Aつがるにしきた 滝吉 千賀子
《個人実績 第3位》
J A八戸 鈴木 節子
《個人実績 第4位》
J A津軽みらい 相馬 英里子
《個人実績 第5位》
J Aつがる弘前 竹内 智咲

令和3年度J A自動車共済

損害調査サービス優秀組合表彰

《最優秀組合》
J Aゆうき青森

《優秀組合》

J A津軽みらい



▲令和3年度L A優績顕彰
ゴールドクラス受賞のJ Aつがる弘前の糸田祐也
さん

令和3年度J A自動車共済

損害調査サービス優秀担当者表彰

《最優秀担当者》

J A青森 横内 鉄也

《優秀担当者表彰》

J Aつがる弘前 池田 尚人
J Aつがるにしきた 船水 聖也
J A十和田おいらせ 蛭名 航洋
J A八戸 小松 功治



▲最優秀審査委員表彰を受けるJ A青森の横内鉄也
さん

行事（6 / 10～7 / 10）

6月

- 9～10日 共済事務処理担当者研修会（県農協会館）
- 15～17日 J A 審査員養成研修会／共通コース【1回目】（県農協会館）
- 20日 青森県J A共済防犯対策協議会（ウエディングプラザアラスカ）
- 20～21日 Q O L（啓発型）健診（県農協会館）
- 21日 交通安全教室（大鰐町立大鰐中学校）
- 24日 交通安全教室（鶴田町立鶴田中学校）
- 29日 J A共済きずなの青い森プロジェクト第1回（平内町）

7月

- 1日 新任L A研修会2（県農協会館）
- 5日 共済事業担当常勤理事会議（海扇閣）
J A共済コンプライアンス点検等研修会（県農協会館）
- 7日 運営委員会（県農協会館）



ナラシ対策等のセーフティネット対策へ加入しておくことは、担い手の皆さんの経営安定のためにとっても重要です。

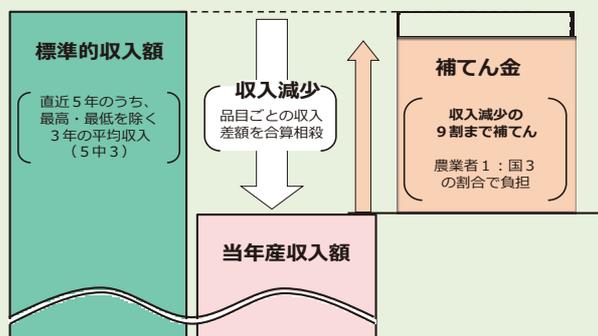
これまでナラシ対策に未加入で、令和4年の収入保険に未加入の方には、ナラシ対策への加入をお勧めします（加入申請期限：6月30日）。

1 ナラシ対策の仕組み

- 農業者ごとに、米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、過去の平均収入（標準的収入額）を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 9 \text{割}$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。このため、補てんを受けるには、積立金の拠出が必要となります。
- 積立金の残額は、翌年産に繰り越されるため、「掛け捨て」にはなりません。



【対象農業者】

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
(いずれも規模要件はありません)

【対象品目】

主食用米、麦（小麦、大麦、はだか麦）、
大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょ

2 ナラシ対策の加入・交付スケジュール等

(1) ナラシ対策の加入から補てん金交付までの流れ

- ① 交付申請書（積立申出）に米、麦、大豆等の生産予定面積等を記入し、**6月30日までに**、地域農業再生協議会又は地方農政局等へ提出（令和4年産からは、**米を生産する予定の場合、出荷・販売契約数量等報告書（新様式）**の提出も必要）
- ② 国からの積立額通知に基づき、**8月31日までに**、積立金を納付
- ③ 収穫した翌年の3月31日までの出荷・販売実績に基づき、**4月30日までに**、**ナラシ交付申請書**とともに生産実績数量の証明書類を地方農政局等へ提出
- ④ 5月下旬から6月頃に**補てん金等交付**

(2) 収入保険との関係

収入保険と、ナラシ対策・農業共済などの類似制度は、どちらかを選択して加入することとなります（重複加入はできません）。

なお、令和4年産のナラシ対策に加入した場合でも、令和5年1月からの収入保険に加入することは可能です（収穫期が重複しないため）。

実践 農業者支援

食品衛生法の改正とその留意点

飲食による健康被害の発生を防止するための法律である「食品衛生法」は、食を取り巻く環境変化や食品衛生管理の国際基準との整合性の必要性等を踏まえ、平成30年6月に15年ぶりの改正が行われた。

この改正は、7つの項目にわたり行われ、それぞれに経過措置の期間が設けられており、施行期日が区々である。

今回は、7項目行われた食品衛生法改正の概要および施行期日、また、その中で特に留意すべき「営業許可制度の見直しと営業届出制度の創設」について紹介する。

【食品衛生法改正の概要および施行期日】

- 1 **大規模または広域におよぶ「食中毒」への対策を強化 ⇒ 平成31年4月施行**
広域的な食中毒の発生、拡大防止のため、国や県が相互に連携・協力を行うもの。
- 2 **原則すべての事業者に「HACCPに沿った衛生管理」を制度化 ⇒ 令和2年6月施行**
一般的衛生管理に加え、「HACCPに沿った衛生管理」を原則すべての食品等事業者を求めるもの。
- 3 **特定の食品による「健康被害情報の届出」を義務化 ⇒ 令和2年6月施行**
特別の注意を必要とする成分等を含む食品による健康被害が発生した場合、事業者から行政へその情報を届け出ることを義務化するもの。
- 4 **「食品用器具・容器包装」にポジティブリスト制度を導入 ⇒ 令和2年6月施行**
「食品用器具・容器包装」について、安全性を評価し、安全が担保されたものでなければ使用できない仕組み（ポジティブリスト制度）を導入するもの。
- 5 **「営業許可制度」の見直しと「営業届出制度」の創設 ⇒ 令和3年6月施行**
現在の営業許可の業種区分を実態に応じて見直すとともに、食品を扱う事業に関し、事業者の届け出制度を創設するもの。
- 6 **食品等の「リコール情報」に関する行政への報告を義務化 ⇒ 令和3年6月施行**
事業者が食品の自主回収（リコール）を行う場合、自治体を通じて国へ報告する仕組みを作り、その情報の報告を義務化するもの。
- 7 **「逆輸入」食品の安全証明の充実 ⇒ 令和2年6月施行**
輸入食品の安全性確保のため、HACCPに基づく衛生管理や衛生証明書の添付を輸入要件とするもの。

【食品衛生法改正で留意すべき「営業許可制度の見直しと営業届出制度の創設」】

1 営業許可制度の見直し



組織農政通信

JAグループ政策提案

～2022年度の食料・農業・地域政策について取りまとめ～

JA全中は5月12日、2022年度の食料・農業・地域政策についてJAグループの政策提案をまとめた。食料安全保障の強化を柱に据え、農林水産関係予算の増額など、「大胆な施策」の必要性を強調している。価格が高騰している肥料は、影響緩和の仕組みの創設を求めている。国産小麦や大豆の増産、国民理解の情勢への支援も要望している。

政策提案では、輸入食料品の値上げや物流混乱などで、食料供給はリスクが生じていると指摘。食料・農業・農村基本法の見直しや予算増額を通じ、食料安全保障を強化すべきだとしている。

生産資材については、価格高騰の緊急対策を求める。肥料は配合飼料や燃油と異なり、高騰分を補填する仕組みなどがないため新たな仕組みづくりを求めた。

中長期的には安定供給の体制づくり、輸入依存からの脱却も課題だとする。国内資源の有効利用に向け、堆肥の広域流通などの体制整備を進めるよう要望。備蓄も組み合わせるよう求める。

小麦や大豆、飼料用トウモロコシは輸入に多くを頼っていることから、国内で大幅な増産を目指すべきだとする。こうした品目の輪作体系への組み入れや、畑作のトウモロコシ向けの支援などを想定する。

食料安全保障に対する国民理解の醸成も強化するよう訴える。資材価格が高騰する中、コストの転嫁などで生産者が再生産できる農畜産物の価格形成の仕組みを求める。

環境調和型農業の推進に向け、必要な機械・設備への支援や環境保全型農業直接支払交付金の拡充などを要望。各品目の対策では、米の需要に応じた生産に関する予算の恒久的な確保などを挙げている。

13日には全中と全国農政連が、東京都内で「食料・農業・地域政策推進全国大会」を開催。与党農政幹部らを招き、食料安全保障について意見を交わした。

本県（JA青森中央会と青森県農協農政対策委員会）も12日、東京・永田町の衆・参議員会館で県選出国會議員7人に対して、食料安全保障の強化などにかかる要請を行った。特に深刻化するウクライナ情勢、世界的な食料や資源競争の激化による生産資材や原油価格の高騰により、食料安定生産のリスクが現実化しつつあることから、食料安全保障の項目は、特に強く要請した。

<政策提案の主な内容>

- ▶ 食料・農業・農村基本法の見直し
- ▶ 肥料の価格高騰に対する影響緩和対策
- ▶ 堆肥などの広域流通への支援
- ▶ 小麦、大豆、飼料用トウモロコシなどの増産支援
- ▶ 再生産に配慮した農畜産物の価格形成の仕組みづくり
- ▶ 環境調和型農業の推進支援
- ▶ 各品目別対策

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

◆令和3年度決算速報からみる県内3月決算JAの状況 ～新型コロナウイルス感染症の感染再拡大が販売事業にも影響～

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の解除以降、外食や旅行等の消費活動に回復の動きがみられたが、感染の再拡大により本県経済への影響も懸念される。このような状況下で、本県農産物の価格にも影響が生じている。米は、販売価格が大幅に下落するなど、厳しい販売となった。りんごは、高値の取引とはなったものの、春先の凍霜害や夏場の降水量の少なさから、生産量が減少した。また、やさいは、ごぼう・夏秋やさいは安値基調で推移したものの、それ以外は堅調な販売となった。これらにより、JAの販売事業利益が減少し、農家組合員の所得への影響も懸念される。

今回は令和3年度3月決算JAの決算速報をもとに県内JAの状況を紹介したい。

2. 令和3年度決算速報（3月決算JA）の概要

3月決算JAの状況としては、事業総利益（3月決算JA計）が14,800百万円（前年度15,555百万円）、前年対比△755百万円（95.1%）と減少した。販売事業総利益は、米価下落、りんごの生産量減少により、3,293百万円（前年度3,636百万円）、前年対比△346百万円（90.5%）と減少した。

事業総利益から事業管理費を差引いた事業利益は975百万円（前年度1,660百万円）、前年対比△684百万円（58.8%）と前年を大きく下回った。なお、詳細は下表のとおり。

令和3年度決算速報（3月決算JA）

（単位：百万円）

	令和3年度	令和2年度	差額	前年対比		令和3年度	令和2年度	差額	前年対比
事業総利益(A)	14,800	15,555	△ 755	95.1%	事業管理費(B)	13,824	13,895	△ 71	99.5%
うち信用	2,850	2,823	27	101.0%	うち人件費	9,274	9,394	△ 120	98.7%
うち共済	3,289	3,389	△ 100	97.1%	事業利益(A-B)	975	1,660	△ 684	58.8%
うち購買	3,637	3,819	△ 183	95.2%	当期剰余金	994	1,705	△ 711	58.3%
うち販売	3,293	3,639	△ 346	90.5%					
うちその他	2,054	2,248	△ 193	91.4%					
うち指導	△ 323	△ 363	39	89.1%					

令和2年度は、新型コロナの感染拡大による影響が、信用、共済事業に影響を及ぼしているものの、それを販売関連事業で補っていた。しかし、3月決算JAの速報値をみると、販売関連事業総利益も減少したことにより、事業利益、当期剰余金が大きく減少する結果となった。

3. さいごに

正組合員の減少・高齢化による労働力不足や低金利環境の継続による収益性低下等の様々な課題により、今後のJAの経営収支は厳しくなることが想定される。そのため、早期警戒制度の改正をふまえ、将来を見据えた収支シミュレーションを策定のうえ、目標利益確保のための取組みを早期に実施していくことが重要となる。

また、将来にわたりJAが農業・地域振興に役割を發揮するため、本会としても、不断の自己改革への取組みや、JAの経営基盤の強化や事業・施設の再編等に向けた取組みを支援してまいりたい。

（中央会 経営対策部）

青森県内初 五戸警察署 A T Mに自動音声装置で詐欺被害防止へ

五戸警察署は五戸町内にある金融機関のA T Mに人を感知して音声で注意を呼びかける装置を設置した。青森県内では初めての取り組みで、5月19日、五戸警察署の署員がJ A八戸五戸支店のA T Mコーナーを訪れ装置を取り付けた。

この装置は、特殊詐欺による被害を防ぐために設置。装置は「こちらは五戸警察署です。『携帯電話を持ってA T Mへ行け』それは詐欺です」とアナウンスが流れる。

注意を呼びかける装置は音声でも呼びかけて特殊詐欺による被害を防ぐ五戸警察署独自の取り組み。チラシにより視覚に訴えるほか、自動音声装置で聴覚に訴える。



小谷署長（右）と横田支店長（左）



今回設置の自動音声装置

五戸警察署の小谷浩信署長は「『A T Mへ行け』は詐欺であることを耳から訴えたい。電話をしながらのA T Mの操作、携帯を見ながらの操作などの姿を見かけた場合は、ひと声かけてほしい」と呼びかけた。

五戸支店の横田美津子支店長は「今回の設置で少しでも被害者が減ってほしい。J A八戸管内では、まだ詐欺被害が出てないが、詐欺被害の防止予防になり、良い取り組みだと思う」と話した。

自動音声装置は、J A八戸五戸管内のA T M2カ所に設置している。

大きくなーれ 植え付け体験 秋の収穫楽しみ

J A八戸は5月28日、八戸市と共催して「キッズあぐり塾」を開校した。八戸市在住の小学生16人が参加した。

開校式では、キッズあぐり塾の塾長を務めた山美喜正組合長は「キッズあぐり塾で野菜を植えて、収穫するまでの作業を体験することで野菜をもっと好きになってもらい、野菜の成長を確認しながら、皆さんと一緒に野菜の先生になってほしい」とあいさつした。また、八戸市の熊谷雄一市長は「キッズあぐり塾が野菜づくりの楽しさや収穫の喜びを体験していただく場となるとともに、農家の皆さんの工夫や努力、食の大切さに対する理解を深める機会としてほしい」と述べた。

三八地域で収穫できる主力品目、八戸伝統野菜「食用菊」について説明を受けたあと、サツマイモ「紅はるか」や「黄金千貫」など4種類、ネギ、ピーマンや食用菊の植え付けに挑戦した。塾生たちはサツマイモではパイプで土に穴をあけ苗を植え付けたほか、食用菊の船底植えなどを体験した。その後、新人職員3人がリーダーとなり（一社）家の光協会が出版している「ちゃぐりん」を用いた野菜クイズを行った。

感想発表では、「サツマイモの収穫が楽しみ」「食用菊の植え付けが難しかったけど楽しかった」と話した。

第2回目は10月に行い、食用菊とネギの収穫を体験する予定だ。



サツマイモの植え付け



食用菊の植え付け



輝き

JA青森中央会
経営対策部 経営企画課
こぼり あきお
小堀 晃生 さん

●プロフィール
2021年6月から勤務 青森市出身

— 働くきっかけは？ —

以前勤めていた職場の上司からの紹介です。

— 業務内容を教えてください。 —

農協要覧の作成、マネロン・反社などの規程整備、研修会の対応等です。

— 働いた感想は？ —

ゆったりとした広いスペースで仕事できて有難いです。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

時間厳守を日頃から心がけています。

— 特技・趣味は？ —

映画・海外ドラマ鑑賞が趣味です。

おすすめの海外ドラマは「グッド・ワイフ」と「エレメンタリー ホームズ&ワトソン in NY」です。

— あなたが自慢できることは？ —

イントロクイズ大会が仮にあったら優勝できると思います。

— 将来の夢は？ —

日本、世界の観光名所や絶景スポットを巡ってみたいです。

リンゴ高密度植導入後押し 受注苗木定植



高密度わい化栽培用の苗木定植を進める宮崎課長

JAごしょつがるが推進するリンゴ高密度植わい化栽培が、管内で広がりを見せている。2021年は30%だった導入面積が、22年はおよそ40%に拡大した。

リンゴの高密度植栽培は、労働力不足や担い手不足に対応した省力樹形で、高度な剪定技術などを必要としないため、管内では就農年数が浅い生産者を中心に導入が進んでいる。JAでは21年から高密度植に関する講習会を開き、生産者への情報提供を開始。苗木の入手困難が課題となっていたため、生産者の高密度植栽培導入を後押しする目的で、18年から苗木の栽培を始めていた。同技術により、早期成園化や反収の増加を期待できることから、SDGs（持続可能な開発目標）の「1. 貧困をなくそう」に関わる農業者の所得増大、農業生産の拡大に貢献する。

5月18日は、宮崎浩美指導課長を始めとした10人の職員らが、五所川原市にある育苗用のほ場で、23年供給用の苗木定植作業を実施。注文を受けた「ふじ」「つがる」合わせて700本を植えた。

今後は乾燥に注意し、高品質な苗木の生産を目指す。



水稲とリンゴを栽培する平澤勇人さん（4月26日、田舎館村にて）

「農業を始めることは、学生の時には決めていた」と話す田舎館村の平澤勇人さん（30）は水稲とリンゴを栽培している若手農業者だ。青森県営農大卒後、苗木販売会社などに勤務し、昨年春に就農した。

平澤さんは農業について「子どもの頃から農作業の手伝いはしていたが、農薬散布や施肥、農業用機械の操作といった本格的なことは就農してから行うようになった。実際に作業を行うことで、農業の大変さを改めて感じた」と語る。また、改善点を探して効率を良くすることも必要だと考え、作業を記録している。「読み返すことで改善点を見つけ、作業の効率化につなげていきたい」と話す。

平澤さんは今後について「今はまだ親から教わりながら農業をしているが、いずれは自分の農業を確立させたい。農家の先輩や仲間から話を聞き知識を深め、実践しながら身に付けていきたい」と熱意を見せた。また「高品質で良食味な農産物の栽培と、安定した農業経営を目指し、家族を守っていけるよう頑張りたい」と今後の目標を話した。

後編 編集集

6月は水無月（みなづき）ともいうが、英語名は June でローマ神話のユピテル（ジュピター）の妻ユノ（ジュノー）から取られた。ユノが結婚生活の守護神であることから、6月に結婚式を挙げる花嫁を「ジュン・ブライド」（June bride、6月の花嫁）と呼び、この月に結婚をすると幸せになれるといわれる。

日本のジュン・ブライドは、6月の雨が多くジメジメした薄暗い雰囲気の中で結婚する人が少ない事に困ったブライダル業界が1970年代頃から始めた物であり、それまでは知られていなかった。

ところで2016年から2018年までの3年間、日本では6月は祝日がない唯一の月となっていた。これは皇室由来の節日の日もなく、一般人の生活も

農繁期でハレの行事がなかった点が影響している。なお1993年には、天皇徳仁と皇后雅子の結婚の儀により、6月9日が休日とされた。



ちなみに『ドラえもん』では、ドラえもんのみみつ道具である「日本標準カレンダー」を使って独自に祝日を制定するエピソードがあり、漫画版では、のび太が6月2日を「ぐうたら感謝の日」、アニメ版では、ジャイアンが6月13日は「昼寝の日」、6月15日は「ジャイアンの誕生日」という祝日に制定した。

以上、6月についての豆知識でした。

それでは皆様、「SEE YOU ON JULY!」（一）

ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。



おすすめ

家の光レシピ

『家の光』は、魅力的な暮らし方を提案します。

調理●小林まさみ 『家の光』2022年7月号「家の光料理カード」掲載

ミニトマトとオクラのスープ

～ 夏野菜のうまみが溶けこんだスープ ～

エネルギー
32kcal
塩分0.7g
調理時間15分



材料
(4人分)

- ミニトマト……………16個(約200g)
- オクラ……………8本(80g)
- タマネギ……………1/2個(100g)
- だし汁……………3カップ
- A
- しょうゆ・塩……………各小さじ1/3
- 塩

7月号好評発売中

作り方

- ①ミニトマトはへたを取る。オクラは塩をこすりつけて洗い、へたとがくを取って、5mm幅の輪切りにする。タマネギは、1cmの角切りにする。
- ②鍋にだし汁、①のミニトマト、タマネギを入れて強火にかけ、ひと煮たちしたらふたをし、弱火で4分ほど煮る。Aを加えて味をととのえる。
- ③②に①のオクラを加えて中火で2～3分あくを取りながら、やわらかくなるまで煮る。

読者特典

YouTubeの動画配信で
ますますパワーアップ!



誌面に掲載の
二次元コードを読み取って
お楽しみください♪

お問い合わせ・お申し込みはJA窓口まで



伝えたい人に、 伝える、伝わる。



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1~6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30~60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrinfo.co.jp

【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞



料理



健康



園芸



健康



手芸

“家活”で暮らしていきたい!!

年6回 別冊付録付き



家の光

定価(税込)

- 普通月号 629円
- 付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
- 家計簿付き12月号 1,027円

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ JAグループ 家の光協会

〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



農協観光 北東北支店 青森エリアセンター インスタグラム・LINE 始めました...



Follow Me!
はじめました

Instagram



農協観光
北東北支店
より旅の情報
やお得な
情報を発信
します。

友だち
募集中

下記QRコードから
登録をお願いします



限定復活! リバイバル特急企画

国鉄 特急列車 はつかり号

7月3日(日)限定
お一人様 18,500円



東北・北海道ブロック割受付中!

予約・宿泊期間:6月30日宿泊まで延長中!!

ひとり一人の感染防止対策で、安全・安心な旅を♪
家族旅行・宿泊プラン・ダイナミックパッケージなどの
個人旅行から、小グループ・団体旅行までご相談くだ
さい。青森県おでかけキャンペーン・東北北海道ブ
ロック割・GOTOトラベル等、今後発表されるお得な旅
の情報を発信します。



観光庁長官登録旅行業第939号
ふれあいコーディネーター。エヌ・ツアー。
株式会社農協観光 青森エリアセンター
☎017-729-8800 FAX729-8803



株式会社農協観光代理業

青森県知事登録旅行業者代理業第26号

JA ゆうき青森旅行センター

☎0175-72-1433

作品介绍

令和3年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第一部）
「おにぎりでパワーチャージ！」
十和田市立南小学校
2年 宮本 尚



■優秀賞（図画部門第一部）
「どんとんいねをかっついでい」
八戸市立是川小学校
2年 中居 凜鳳